ボーリング柱状図

調　査　名　平成16年度標津断層帯調査業務委託

事業・工事名　平成16年度地震関係基礎調査交付金事業

ボーリング№	7

シート№　1

ボーリング名	S04-Mu-1	調査位置	標津郡中標津町字北武佐			北緯	43° 38' 37.7"
発注機関	北海道立地質研究所　地域地質部			調査期間	平成 16年 10月 10日 ～ 16年 10月 13日	東経	144° 55' 19.7"
調査業者名	サンコーコンサルタント株式会社　札幌支店 電話（011-837-5537）	主任技師	田邊　謹也	現場代理人	越谷　賢	コア鑑定者 越谷　賢	ボーリング責任者 辻川　信夫
孔口標高	155.15m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0°
総掘進長	25.00m	使用機種		試錐機	利根TDC-1G	ハンマー落下用具	トンビ
				エンジン	ヤンマーNFD-13	ポンプ	丸山903

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値 0 10 20 30 40 50 60	原位置試験 深度(m)	試験名および結果	試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（）	掘進月日
	154.68	0.47	0.47		表土	褐黒			草根混在。軽石が散在。														
1	153.95	0.73	1.20		礫混り砂	灰褐			葉理が弱く発達する細～中粒砂。軽石・安山岩の細礫が散在。														
	153.36	0.59	1.79		軽石	褐灰～灰橙			軽石が主体。軽石形状・火山礫含有率などから3ユニットに区分される。(Ma-g～i)														
2	152.84	0.52	2.31		火山灰	灰			細粒ガラス質。葉理発達。(Ma-j)														
	152.80	0.52	2.35		腐植土	褐黒			全体に橙色軽石が散在する。葉理の弱く発達した火山灰質砂(Ma-k?)が挟在する。														
3																							
4					玉石混り砂礫	灰褐～褐灰			円～亜円礫主体で基質はシルト質粗粒砂。礫種は安山岩主体で泥岩・緑色凝灰岩・閃緑岩礫を稀に含む。上方へ礫径・含礫率減少し、上部は火山灰質砂質シルトへ漸移。	10/18 3.85													
5	149.45	3.35	5.70																				
6																							
7																							
8					凝灰質礫岩	黄灰～明灰			塊状～弱く葉理の発達する円礫岩。基質は凝灰質細～中粒砂。礫種は安山岩・軽石主体で珪長岩礫を稀に含む。所々凝灰質シルト岩薄層が挟在する。層理面は20～30°程度で傾斜する。														
9																							
10																							
	144.29	5.16	10.86																				10/10
11					凝灰質シルト岩	灰褐			不淘汰砂質で弱く葉理が発達する。全体に安山岩・軽石の亜円～亜角礫が点在する。														
12	142.94	1.35	12.21																				
13					凝灰質礫岩	明灰～黄灰			円～亜円の細～中礫が主体で、基質は凝灰質細粒砂。上部は軽石質。下部は相対的に安山岩・緑色凝灰岩礫が目立ち砂質である。														
14	140.89	2.05	14.26																				
15	140.00	0.89	15.15		凝灰質砂岩	黄灰～褐灰			葉理(傾斜5°)が弱く発達する細粒砂。凝灰質シルト岩の薄層が挟在する。14.83～14.92m:材化石。														
16	138.39	1.61	16.76		凝灰質シルト岩	暗褐～明灰			軽石・木片が散在し、全体に比較的炭質。凝灰質砂岩薄層が挟在する。														
17					凝灰質砂岩	褐灰～黄褐			葉理が発達する中～細粒砂が主体で、凝灰質礫岩・シルト岩の薄層が数層挟在する。軽石・デイサイト・安山岩・玄武岩礫が散在する。														
18																							
19	136.00	2.39	19.15																				
	135.32	0.68	19.83		凝灰質砂質シルト岩	褐橙			塊状で軽石・安山岩・玄武岩礫が散在する。最下部は礫を多含する。														
20					凝灰質砂岩	橙褐～淡灰			細～中粒砂が主体で軽石・安山岩・玄武岩の礫が散在する。上部は葉理が発達する。														10/11
21	133.95	1.37	21.20																				
	133.35	0.60	21.80		砂岩～シルト質砂岩	灰～明灰			級化構造発達。上部は炭質物・木片を含む。下部は軽石質。層理面の傾斜は10°程度。														
22	132.97	0.38	22.18		スコリア凝灰	黄褐			塊状。比較的淘汰が良い。														
	132.76	0.21	22.39		軽石凝灰岩	明灰			塊状。下部はスコリア散在。														
23					軽石質砂岩	黄灰～明灰			全体に軽石質で葉理が発達する。中～下部は中粒～粗粒砂が主体。上部は極細粒砂主体。層理・葉理面の傾斜は5°。														
24	130.94	1.82	24.21																				
	130.15	0.79	25.00		砂質シルト岩	明灰～黄灰			葉理(10°程傾斜）が発達し、稀に炭質物が散在する。														10/12
25																							